

隠岐海区便り (Vol. 69)

◎第312回（第21期第3回）隠岐海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員：葛西、前田、升谷、吉田、亀谷、濱田、長府、福山、林委員

欠席委員：佐々木委員

開催日時：平成29年3月23日（木） 14：10～15：30

開催場所：隠岐郡隠岐の島町西町 漁業協同組合 JF しまね西郷支所 3階会議室

議題

- (1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画の変更について（諮問）
- (2) 日本海・九州西広域漁業調整委員会指示（トラフグ）について（報告）
- (3) 平成28年の島根県の漁業生産の状況について（報告）
- (4) その他

◎委員会での検討結果は次のとおりです。

- (1) 島根県の海洋生物資源の保存及び管理に関する計画の変更について（諮問）
 - 平成29年漁期の「するめいか」のTACについて、島根県への配分量を次のとおり定めた旨が国から示され、これに伴い県の管理計画を変更することについて知事から本委員会に対して諮問がありました。
 - するめいか：若干
 - 全国のスルメイカ漁獲量の内、知事管理分の漁獲量は全体の約2割程度であり、かつ、定置網など管理が難しい漁獲が大半を占めるため「若干」となっている。
 - 審議の結果、この諮問について、異議ない旨の答申をすることが決定しました。
- (2) 日本海・九州西広域漁業調整委員会指示（トラフグ）について（報告）
 - 本委員会指示は、九州西海域から日本海（島根県の西側）までの範囲でトラフグの資源管理を広域的に行うため設定されているものです。
 - 島根県に承認船はありませんが、規制海域の一部に島根県の沖合が含まれているため、本指示について日本海・九州西広域漁業調整委員会から報告があり、その内容について事務局より説明がありました。
 - 小型魚の再放流に関して、これまでは「25cm以下」が再放流の対象でしたが、「30cm以下」に引き上げられた。
- (3) H28年の島根県の漁業生産の状況について（報告）
 - H28年の島根県の漁業生産の状況について、事務局より以下のとおり説明がありました。
 - 県全体の漁獲量・生産額ともに前年・平年並み。
 - 総漁獲量は10万8千トンでH27年から1万2千トン減少。
 - 生産額は192億円でH27年から2千万円増加。
 - まき網漁業は、漁獲量が8万5千トン、生産額は78億2千万円。このうち中型まき網漁業の漁獲量は7万6千トン、生産額は68億4千万円で、中まき1船団あたりの量、金額はともに平年並み。
 - 沖合底びき網漁業は、漁獲量が4千5百トン、生産額は22億円となり、量・金額とも

に前年を上回った。

- 小型底びき網漁業は、漁獲量は3千9百トン、生産額は18億2千万円。一隻あたりでは漁獲量、金額とも平年並み。
- 定置網漁業は、漁獲量が6千トン、生産額は20億円でともに前年を下回った。隠岐地区の定置網では主力のスルメイカが平年比9%と大きく平年を下回り、サバ類、ヒラマサなどが好調であったようだが全体としては平年を下回った。
- 釣り・延縄漁業は、漁獲量が1千トン、生産額は9億6千万円でどちらも平年並み。隠岐地区の釣り漁業では、ブリ、ハタ類などが平年を上回ったが、カサゴ、メバル類、マダイ、キダイ、クロマグロが平年を下回ったため総漁獲量では平年並み。
- イカ釣り漁業は、漁獲量が693トン、生産額は6億円で量・金額ともに平年を下回った。